

平成 27 年 10 月 30 日
新宿区立牛込第二中学校
校長 長田 和義

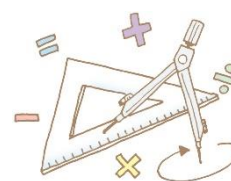
確かな学力の育成に向けて

4 月に第 3 学年を対象に「全国学力・学習状況調査」を、7 月に第 2 学年を対象に東京都の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」を行いました。その概要と本校の取り組みについてお知らせいたします。

1 全国学力・学習状況調査結果の概要（第 3 学年対象）

(1) 実施教科

国語 A 数学 A 「主として知識」に関する問題
国語 B 数学 B 「主として活用」に関する問題
理科



(2) 調査結果

全国の平均をいずれも上回る正答率であり、全国の平均と比較した場合、大きく上回っていた（概ね 5 ポイント以上）内容は以下のとおりです。

国語 … 主として知識における「書くこと」、主として活用における「話すこと・聞くこと」、国語への関心・意欲・態度に関するもの、主として活用における問題の記述式で解答するもの

数学 … 主として知識における「図形」、主として活用における「図形」「関数」「資料の活用」、主として活用における問題については選択式、短答式、記述式すべてのもの

理科 … 「生物学的領域」

(3) 質問紙調査結果 ※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計を肯定的な回答としました。

「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して発表するなどの学習活動に取り組んでいる」という設問には 79.9%の肯定的な回答があり、全国平均を 20%以上、上回っています。

「自分には、よいところがあると思いますか」という設問への肯定的な回答は全国平均から 10 ポイント低く、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」の肯定的な回答は全国平均から 5 ポイント低い結果でした。

2 東京都の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果の概要（第 2 学年対象）

(1) 実施教科

国語 社会 数学 理科 英語 の 5 教科
(A 教科内容 B 読み解く力に関する内容で構成)



(2) 調査結果

各教科の正答率は、5 教科合計では東京都の平均とほぼ同様の正答率でした。

東京都の平均正答率と比較した場合、国語の教科への「関心・意欲・態度」「必要な情報を正確に取り出す力」及び英語の「外国語表現の能力」の正答率は大きく（10ポイント以上）上回っていました。



(3) 今回の調査結果から見た各教科の課題と今後の手だて

教科	課題	今後の手だて
国語	聞く力、書く力、解決する力の向上	聞く力について、話の内容を的確に聞き取る力をつけさせる。具体的な数字、方法はメモすること等、聞くときのポイントを指導していく。 書く力と解決する力については、読解後、作品を通して、自分の考えをもち、それを書く学習を増やす。
社会	自ら考える力、解決する力の向上	グループワークや発問を多く設定し、考える力を育てる。また、様々な資料を読み解く場面を多く設定し、多角的に分析する力を育てることで、様々な問題を解決する力を伸ばしていく。
数学	取り出す力や読み取る力の向上	文章題から出題の意図を読み取り、文章から式をたてる学習を増やし、繰り返し行うことで、取り出す力や読み取る力を伸ばしていく。
理科	数値計算にかかわる問題への理解・対応力向上	公式等を状況に合わせ正しく適用できるよう条件の確認を丁寧に指導する。問題演習を多く取り入れ、自信をもたせ、教科の学習への意欲の向上も図る。
英語	読み取る力、解決する力の向上	I C Tの活用や言語活動の充実、繰り返し学習を取り入れ、関心・意欲・態度を高める。 教科書等の読解を通して内容を把握する力や表現する力を伸ばしていく。さらに、ペアワークやグループワークで互いに教え合い、答えを導き出し、伝える力を伸ばしていく。

3 今年度の取り組み

本校では、確かな学力を「想像する力・挑戦する力・伝える力・発見する力・振り返る力」と具体化し、生徒が身に付けることを目指しています。今年度は、生徒の主体的な学習を喚起することを重点事項とし、各教科で次のように取り組んでいます。

教科	生徒の主体的な学習に向けて
国語	作文や俳句指導に力を入れ、豊かな情操をはぐくみ、想像する力を育てる。スピーチや意見交換、プレゼンテーション等の言語活動の場を充実させ、伝える力を育てる。相互評価をとおして、自らを振り返る力を育てる。
社会	ビジュアルな資料やワークシートを用いて社会的事象に関心をもたせ、想像する力を育てる。地図・資料・新聞・データを読み取る力を養い、考察し発見する力を育てる。調べたことをまとめ発表させ、伝える力を育てる。
数学	少人数指導を実施する。物事を数学的にとらえ論理的に考えることの良さに気づかせる。班学習を取り入れ言語活動を充実させる。自分のノートを見ながら記述するテストを実施するなど、考えたことを数学的に表現する力を身に付けさせる。
理科	基礎的な知識及び観察・実験の基本操作を習得させることで、課題に対し自信をもって挑戦する力を育てる。観察・実験結果を分析することで、発見する力を育てる。また結果を自分の言葉でまとめる作業を通して、伝える力を育てる。

音楽	演奏発表の場面において、表現の工夫について音楽用語を用いながら、自分の言葉で説明することを通して、伝える力を育てる。
美術	ポスターコンクールへの参加や、平面作品だけでなく、立体作品や、様々な表現方法の作品制作に取り組むことによって、挑戦する力を身に付ける。
保健体育	運動を客観的・理論的に捉えることにより、自己の達成目標を常にもつことを身に付けさせる。達成目標の設定により、挑戦する態度、技術を習得するための工夫や気付き、結果を受けとめ次につなげる力を身に付けさせる。
技術	実習において、使用条件に即した自分の作りたい作品を創造し、製作図で表現する。作品製作で自分らしさを伝える力を身に付ける。
家庭	実習において完成図を確認しながら作業させ、希望する生徒には難しい手縫いの指導をし、想像する力、挑戦する力を身に付けさせる。また、完成後は、反省点をまとめることで、振り返る力を身に付ける。
英語	学習した表現を活用してのスピーチやレポート、インタビュー活動を通して、挑戦する力を育てる。ALTや他生徒の英語も参考にしながら、自身について英語で伝える力を身に付けさせる。

4 本校の授業実践

(1) 授業のねらいの明確化

1時間の授業のねらい(例:英語科 **Today's Point**)を示すことで、この時間で身に付ける内容を明確にしています。



(2) 「学び合い」時間の設定

ペアグループやグループで、考えを伝え合ったり、教え合ったりすることで、自分の考えを発展させたり、自分の意見を言葉にすることで理解を深めたり、助言を得られたりすることができます。



(3) ICT 機器の活用

教科書や資料を大きく提示して示すなど、生徒に伝える内容を視覚化することで、理解を支援します。また、問題を映し、書き込みながら確認するなど、各教科で工夫して活用しています。



(4) 実験・観察等の充実

実験・観察など具体的な活動を通して実感や感覚をともなった活動を行うことで興味・関心を高めたり、理解を深め、新たな発見等につなげたりしています。



本校では、7月に実施した「生徒意識調査」の結果や「全国学力・学習状況調査」東京都の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の調査結果などから、確かな学力の育成にかかわる課題と改善のための手だて等を検討してきました。

今後、11月の校内研修会でさらに協議を深め、これからも確かな学力の育成に向けての取り組みを推進してまいります。